

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷場東小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」等、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。また、次年度は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を研究のテーマとし、さらなる基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、R6年度の全国学力・学習状況調査等で検証したい。
思考・判断・表現	話し手の伝えたいことや自分の聞きたいことを中心に、自分の考えをもつことに課題が見られたため、国語の授業中だけでなく、学級の話合い活動などを通して伝えたいことや聞きたいことを中心に捉える活動の充実を図る。また、各教科の授業で、自己の考えをまとめる活動を引き続き重視していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	5・6年生の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をどちらの学年も平均92%以上を維持し、1年生から4年生においても、ICTを活用した振り返りの実施や記録の蓄積を図り、主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。また、高学年の「読書の習慣」の肯定的割合を向上させる手立てが必要である。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の知識・技能に関わる領域において、R4年度の自校の結果より1pt向上させる。	⇒ 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」などを活用し、繰り返し問題に取り組むことで、基礎学力を確実に身に付ける指導を行う。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語において「思考・判断・表現」を昨年度の自校結果より1pt上げる。	⇒ 国語の人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題に課題があるため、読む活動などを通して具体的に想像する時間を意図的につくる。また、読書の習慣を身に付けさせるため、多くの本と触れ合う時間を設ける。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答で95%以上を目指す。	⇒ 授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が問題を見いだしたりして、児童が主体的に課題を解決する場を設定する。また、授業中に必ず自己の振り返りができる時間を設定する。

<小6・中3> (4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	さいたま市学習状況調査では、R5年度「知識・技能」とR4年度「知識・技能」との偏差値の比較においては、±0ptという結果になった。 偏差値 R5 3年:50、4年:53、5年:50、6年:55 R4 3年:51、4年:51、5年:54、6年:52	A
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査では、R5年度「思考・判断・表現」とR4年度「思考・判断・表現」との偏差値の比較において+1ptという結果になった。 偏差値 R5 3年:51、4年:53、5年:51、6年:53 R4 3年:51、4年:51、5年:54、6年:50	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答で95%以上の目標に対し、5年:91.7%、6年:92.8%と学校平均で92.25%という結果となった。R4年度は、5年:94.4%、6年:93.5%で学校平均93.95%だった。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+3pt、算数+9ptで大幅なポイントアップとなった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+6pt、算数+10ptで大幅なポイントアップとなった。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答は98%となり目標を達成した。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語-1pt、算数-1ptであった。国語の我が国の言語文化に関する事項の問題において課題が見られた。算数では、図形の問題において課題が見られた。教科への興味関心については、国語は、肯定的な回答の割合が80%と高い傾向が見られた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+2pt、算数+3ptであった。国語においては、目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読むことができる事項の問題に課題がみられた。教科の興味関心については、国語は肯定的な回答の割合が約87%と高い割合に、算数は、68%という傾向が見られた。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語-4pt、算数-2ptであった。国語では話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に、自分の考えをもつことができる事項に課題がある。生活習慣に関する、「読書の習慣」において、本を読んだり借ったりするために、図書館に行くの肯定的回答が2割に満たないという傾向が見られた。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+3pt、算数+5ptであった。また、国語の同集団経年比較において、学習指導要領の領域[読むこと]が、-3ptという結果が見られた。生活習慣に関する、「読書の習慣」において、本を読んだり、借ったりするために、図書館に行くの肯定的回答が1割という非常に低い傾向がみられた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	算数の「図形」の領域において、面積を求める公式を覚える学習にとどまらず、その特徴を考えたり説明したりする活動を重視する。	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から、算数の「図形」の領域に課題がみられたため、面積を求める公式を覚えるだけでなく、特徴を考えたり説明したりする活動を多く設定する。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷場東小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	引き続き、「個別最適な学び」の研修を続け、児童が課題解決へ自己決定する機会を多く取り入れるようにする。教師が、児童へ目標値を示すことで、意欲的に取り組む姿が今年度、多々見られた。児童が自分で目標値や学び方を決め、ゴールをイメージできるように支援を続けていく。	
思考・判断・表現	自分の考えを多様な形で表現できるようにしていく。タブレットだけの表現に限らず、文章、図や絵、表やグラフ等、多様な方法で自分の考えを表せるように、児童が自分で表現方法を決められる機会を設けるようにする。また、難しそうな課題や長い文章等に対しても粘り強く取り組めるように支援をし、R7年度の全国学力・学習状況調査等で引き続き改善状況を検証していきたい。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 全体的に、基礎的、基本的な知識・技能の定着が図れている。しかし、個人差が大きく、2極化する傾向がある。</p> <p><指導上の課題> 児童自身が、学習を振り返る機会があまり設けられていない。</p>	⇒ 「個別最適な学び」を研修のテーマとし、授業を改善している。学習が得意な児童は、さらに学力が向上するように、苦手な児童は、「わかる喜び」を感じることができるようになっていく。そのためにも、児童の学習状況を把握し、個に応じた習熟別学習を行う。
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 意欲的に学習に臨んでいる児童は多いものの、国語の学習では、文章を記述する問題で無回答が目立つ。</p> <p><指導上の課題> 児童が多様な表現ができるように、工夫した授業を行うことが必要である。</p>	⇒ 児童が、文章を記述したり、作品を制作したりする際は、事前に評価の観点を示し、児童が表現の仕方の見直しをもって臨めるように指導をする。また、児童には様々な作品の例を示し、多様な表現方法を知る機会を設ける。

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	「個別最適な学び」についての職員研修を通して理解が深まり、授業に取り入れられるようになった。その際、児童が課題解決に向けての取組を自己決定できるように促した。それにより、個に応じた支援がしやすくなった。単元ごとの振り返りの時間を設け、児童の授業の理解度が高まった様子が見受けられた。
思考・判断・表現	A	児童が文章を記述したり作品を制作したりする際に、評価となるポイントを示した。そのポイントがあることで、児童が見直しをもって意欲的に取り組むようになった。また、中間発表会を設けたり、友達のことを気軽に見に行く機会を設けたりすることで思考が深まり、更によりよくしようと挑戦する児童が増えた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の(2)情報の扱い方に関する事項では、9割以上の正答率であった。(1)言葉の特徴や使い方に関する事項では、平均よりは上ではあるものの、差は大きくないため、さらに伸ばすことが課題である。算数においても平均を上回ることができた。しかし、円グラフの特徴を理解し、割合を読みとる問題において、平均を若干下回り、無回答率が高かったため、データの活用問題では、課題がある。	
思考・判断・表現	全国平均を上回ることができている。しかし、B書くことの記述式の問題において、平均値とあまり変わらない結果であった。特に、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする力を高めることが課題である。算数でも、すべての項目で平均を上回ることができている。しかし、記述式の問題において無回答率が高いものもあり、課題がある。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	どの学年においても市の平均値を超えており、基礎的・基本的な知識・技能の定着は図れている。高学年の理科においては、市平均と近い数値となっている。科学的な言葉や概念の理解や、正しい観察の仕方の理解においてさらに知識・技能を高めていく	
思考・判断・表現	無回答率が減少しており、自分の考えを表そうとする意識の向上が見られる。高学年の社会科の思考・判断・表現の問題区分では、平均を大きく超えることができていた。中学年の算数のデータ活用については課題がある。グラフ等の資料から情報を読みとる力をつけていくことを今後高めていきたい。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	「個別最適な学び」を研修のテーマとして各教員が取り組んでいる。タブレットを活用し、自分の目標に合った学習を選択し、取り組んでいる姿が見られる。	変更なし
思考・判断・表現	A	タブレットに表す、ノートに書くなど多様な表現方法を示し、授業を行っている。活動の前に評価を示し、児童が目標を自分で決める姿も見られる。	国語、算数の教科において、記述式の問題に課題がある。授業の中で、自分の意見や感想を多様な表現方法で表す時間をさらに設定する。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)